

CONTENTS

平成22年度 研修計画について

国家資格について

編集後記

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を、山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。



●山口きらら博記念公園水泳プール

平成22年度 研修計画について

平成21年～26年の長期研修計画に基づき、平成22年度の研修計画を決定しましたのでお知らせします。

平成21年度については、平成21年7月の豪雨災害が発生した関係から、研修回数が20回となり、当初予定の22回の開催ができませんでした。その関係もあり、研修参加者数も679人と前年に比べて大幅な減少となりました。（平成20年度：23回、884人）

研修内容については、皆様からいただいたアンケートを基に毎年見直しを行い、より良い研修が開催できるよう心懸けていますので、積極的に参加していただきたいと思っております。



新任者〔前期〕研修

● 建設技術センターの研修

センターで行う研修は3つの研修区分から構成されています。

職務基礎研修

新規採用職員を対象に、職務を遂行するために必要な技術に関する基礎的知識を修得するための研修

実務能力研修

主に実務経験2～5年程度の職員を対象に、複雑・多様化する土木建設技術に的確に対応するために必要な実務能力を修得するための研修

専門能力研修

主に実務経験5～10年程度の職員を対象に、最新の技術革新や新工法に対応するために必要な専門能力を修得するための研修

研修区分と実務経験年数は目安であり、参加者を限定するものではありません。経験豊富な方が基本を復習された場合や、経験年数は少ないが業務で必要な場合など、実務経験にかかわらず参加いただければと思います。

● 平成22年度研修計画

平成22年度の研修計画をお知らせします。研修内容と研修日程は別表（次頁）のとおりです。

研修内容の特徴は、

- ① C A L S / E C への対応が強く求められていることから、平成22年度より新しく「C A D」研修を開講します。研修は、初級編、中級編の2回に分けて実施する予定です。最近ではC A Dが使えないと業務上支障をきたすこともあることから、この研修は年度の早い時期（初級編：5月、中級編：6月）に実施を予定しています。
- ② 平成21年度より2日間の研修日程のうち1日のみ受講可能とする研修課程をいくつか設定しています。平成22年度研修でも、「下水道実務研修」や「橋梁・コンクリート維持管理研修」、「上級技術者研修」等で「一部のみの受講可能」としています。
- ③ 平成21年度実施予定の研修で、平成21年7月の豪雨災害により年度中に実施できなかった、「道路計画研修」、「砂防実務研修」の2課程については、平成22年度に改めて実施します。



新任者〔前期〕研修



施工管理実務（後期）研修



現場研修（萩三隅道路・玉江橋）



情報通信技術研修



新技術・新工法研修

（写真は、平成21年度研修状況です。）

平成22年度 研修計画

研修区分	研修課程名	研修内容	研修日数 (注1)	日程
職務基礎研修 (4課程)	新任者(前期)	・土木技術職員の心構え ・設計書の構成と歩掛表の見方 ・設計書の作成演習 ・工事現場実習	4	5/18~21
	新任者(後期)	・設計書の構成と歩掛表の見方(業務委託) ・設計書の作成演習(業務委託) ・工事検査について ・地質調査について	3	11/9~11
	災害復旧基礎	・災害復旧事務の流れ ・災害復旧事業の計画と演習 ・災害現場測量実習 ・査定設計書作成演習 ・査定の実地演習	3	6/1~3
	積算システム	・土木積算システム演習 ・設計書の作成演習	1	6/29
実務能力研修 (8課程)	設計積算	・積算概論 ・設計積算の留意点 ・土木積算演習 ・小構造物設計演習	2	10/13~14
	道路実務	・道路事業の流れ ・道路法 ・道路技術基準 ・道路設計演習 ・道路土工指針(排水工) ・道路排水工演習	2	6/9~10
	下水道実務	・下水道事業の概要 ・下水道の基本計画 ・下水道管渠の設計 ・下水道の維持管理 ・各種管渠工法	②	9/8~9
	砂防実務	・砂防事業の概要 ・急傾斜地崩壊対策事業の概要 ・地すべり事業の概要 ・関係諸法規と事務手続き	2	9/1~2
	港湾実務	・港湾海岸事業の概要 ・設計積算体系の解説 ・事業執行の留意点 ・港湾関係基本法令	2	7/14~15
	施工管理実務(前期)	・施工計画 ・施工管理 ・品質管理 ・工事検査 ・工事安全対策 ・工事監督の留意事項 ・現場管理の実際 ・現場施工事例	2	7/7~8
	施工管理実務(後期)		2	9/29,10/6
	測量・土質地質調査	・土質、地質調査の計画、調査方法 ・測量調査の方法、測量事務の概要	②	12/15~16
専門能力研修 (11課程)	道路計画	・道路計画概論 ・道路計画設計演習	2	10/27~28
	道路施設設計	・舗装の設計、演習 ・歩道の構造とバリアフリー ・自転車通行環境整備 ・交通事故対策の立案と設計 ・道路附属施設的设计演習	②	8/5~6
	斜面对策	・法面对策工の選定 ・安定解析の種類と選択 ・アンカーの設計施工 ・法面工の設計 ・緑化工法	2	8/18~19
	建設環境	・環境アセスメントの基本 ・生態系の保全 ・建設リサイクル ・環境に配慮した施工事例 ・景観	2	10/20~21
	橋梁・コンクリート 維持管理	・コンクリート構造物の維持管理 ・コンクリート構造物の劣化原因及び調査法 ・コンクリート補修工法 ・橋梁維持管理	②	12/7~8
	地盤改良工法	・地盤改良工法の概要 ・地盤改良設計 ・軟弱地盤の概要 ・設計演習	2	9/14~15
	CAD	・CADの利用 ・情報通信技術の活用 ・建設CALIS/ECの演習	2	初級:5/12 中級:6/15
	現場研修	・現場施工法 ・現場管理の実際 ・現場施工事例 ・事例研究	2	①7/28 ②11/30
	建設マネジメント	・アセットマネジメントについて ・社会資本整備の現状と課題 ・住民参加と合意形成 ・危機管理の理論と実践 ・建設行政の動向	1	1/19
	現場技術(現場紹介)	・現場施工事例 ・新技術や新工法の紹介 ・プレゼンテーション演習	①	8/10
	上級技術者	・土木倫理規定 ・建設業法等の土木関係法令 ・工事安全対策 ・工事監督の留意事項 ・建設分野の最新情報 ・危機管理	②	11/17~18
合計	研修課程数	23課程	47	

(注1) 研修日数が○数字のものは、一部受講も可とする。

(注2) 研修内容・日程は、実施にあたって若干異なる場合があります。

国家資格について

これまでも当情報誌で何度か国家資格取得について情報提供を行ってきました。発注者である県や市町の土木技術職員にとって、国家資格は業務上必ず必要というものではありませんが、請負者側の技術者は取得が求められています。4月～6月にかけて、受験申込の時期となります。国家資格取得を自己研鑽の格好の機会と捉え、これまで培ってこられた土木の技術力を確認されてはどうでしょうか。以下、代表的な国家資格を紹介します。

土木施工管理技士

土木施工管理技士とは、河川、道路などの土木工事において、主任技術者または、監理技術者として施工計画を作成し、現場における工程管理、安全管理など工事施工に必要な技術上の管理などを行う技術者のことです。

建設業者にとっては、建設業法に基づき工事現場に配置する主任技術者や監理技術者に取得が求められる国家資格であり、一級土木施工管理技士と二級土木管理技士が存在します。

詳しくは、(財)全国建設研修センターのホームページ(<http://www.jctc.jp/>)をご覧ください。

試験概要

	一 級	二 級	
受験資格 (指定学科卒業者の 実務経験) ^(注1)	大 卒 3年以上 短大・高専卒 5年以上 高 卒 10年以上	大 卒 1年以上 短大・高専卒 2年以上 高 卒 3年以上	
試験方法	学科試験 マークシート 実地試験 記述式	同左	
試験 日程	願書配布 ^(注2)	H22.3.15～4.15	H22.3.15～4.30
	インターネット申込	—	—
	郵送申込	H22.4.1～4.15	H22.4.16～4.30
	学科試験	平成22年7月4日(日)	平成22年10月24日(日)
実地試験	平成22年10月3日(日)		

(注1) 指定学科以外の卒業者の場合は、受験するにはこの表より長い実務経験が必要となります。

(注2) 願書の購入方法には、電話、インターネット、郵便、窓口があり、それぞれ配布期間が異なりますが、ここでは一番長い窓口での期間を示しています。

としあな

技術士・技術士補

「技術士」とは、技術士法に基づいて行われる国家試験(「技術士第二次試験」)に合格し、登録した人だけに与えられる称号です。国はこの称号を与えることにより、その人が科学技術に関する高度な応用能力を備えていることを認定することになります。

「技術士補」とは、同じく技術士法に基づく国家試験(「技術士第一次試験」)に合格し、登録した人だけに与えられる称号です。技術士補は、技術士となるのに必要な技能を修習するため、技術士を補助することになっています。

技術士・技術士補は複数の技術部門に分かれており、土木に関する主なものは「建設部門」と「総合技術監理部門」です。

設計業者にとっては、業務委託に配置する管理技術者や照査技術者に取得が求められている国家資格です。

詳しくは、(社)日本技術士会技術士試験センターのホームページ(http://www.engineer.or.jp/examination_center/)をご覧ください。

試験概要

	技術士補 (技術士第一次試験)	技術士 (技術士第二次試験)	
受験資格	年齢・学歴・業務経歴等 による制限なし	第一次試験に合格し、かつ 実務経験7年以上 ^(注1) ^(注2)	
試験方法	筆記試験 マークシート	筆記試験 記述式 口頭試験 面接	
試験 日程	願書配布	平成22年6月1日(火)～	平成22年4月1日(木)～
	インターネット申込	H22.6.1～6.14	H22.4.1～4.15
	郵送申込	H22.6.15～7.2	H22.4.16～5.7
	筆記試験	平成22年10月11日(月・祝)	平成22年8月8日(日) ^(注2)
口頭試験	—	平成22年12月から平成23 年1月までのあらかじめ受験者に通知する1日	

(注1) 技術士補として技術士を補助した場合、補助した実務経験4年以上でも可

(注2) 総合監理部門は除く

としあな

その他の国家資格

その他、土木技術に関連した国家資格として、管工事施工管理技士、造園施工管理技士があります。

管工事施工管理技士 申込期間 H22.5.6～5.20(一級二級共通) 造園施工管理技士 申込期間 H22.5.20～6.3(一級二級共通)

詳しくは、(財)全国建設研修センターのホームページ(<http://www.jctc.jp/>)をご覧ください。

編集後記

平成21年度も残り1ヶ月をきりました。今年度は、6月の大型補正予算、7月の豪雨災害、8月の総選挙と民主党への政権交代、9月の前原国土交通大臣の八ツ場ダム建設中止発言とそれ以降のダム問題等、土木行政に関係した話題の非常に多い年でした。

年度末の精算時期を忙しく過ごされていると思いますが、時間のやり繰りをして、世の中の流れをジッと見つめる時間を持ちたいものです。

【Eメールアドレス】 info@yama-ctc.or.jp

【ホームページアドレス】 <http://www.yama-ctc.or.jp>

〒753-0073 山口市春日町8-3春日山庁舎

(財)山口県建設技術センター 情報誌編集委員会 宛

[TEL] 083-920-1233 [FAX] 083-920-1288